

| 該当箇所 | 質疑・意見等 | 回答 |
|-----------------|---|--|
| 第1回資料 1-2 P5 | 老人大学について説明がないが、これは何か。 | 本計画中「老人大学」となっているものは「生涯大学校」に変更します。 |
| 第2回資料全般 | 障害を持つ人が介護が必要になった場合に、必要な介護を受けることができるように、わかりやすい案内をしてもらいたい。 | 第2回配布資料1-2 P2 地域包括ケアシステムと「地域共生社会」 下から2行目に追記 <u>「連携を強化し、誰もが必要な情報を取得及び利用し、円滑な意思疎通を図ることができるよう取り組むとともに、多様で複合的な～努めていきます。」</u> |
| 第2回資料全般 | 他市では「終活」の相談窓口などを設置している。「終活」を取り上げてはどうか。 | 第2回配布資料資料1-2 P1 地域包括ケアシステムの推進 6行目以降について、下記のとおり変更 「～が見込まれます。 <u>第8期までの計画を継承しながら、中長期的な視野に立ち、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）構築の深化・推進を図っていくことが必要となっています。</u> <u>高齢者の尊厳の保持と自立した生活を支援し、成年後見制度や人生会議（ACP）などの老い支度の啓発を通じて、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる体制の構築をする必要があります。」</u> |
| 第2回資料全般 | 「生涯現役」のキャッチフレーズ、様々な経験のある高齢者と子どもの多世代交流を進めてはどうか | 第2回配布資料資料1-1 P22 ウ地域活動・社会参加 矢印の下枠内 下から3行目について修正 <u>「情報提供も必要です。高齢者が流山市で生涯現役で輝ける地域を目指して、地域づくり活動や社会参加に積極的に取り組めるように、支援を必要とする人と活動を希望する人との橋渡しが重要です。</u> 第2回配布資料資料1-2 P49 生活支援コーディネーターのコーディネート機能 上から5行目以降に続けて追記 <u>「～として取り組みます。また、高齢者が生涯現役を目指した活動ができるように、支援が必要な人やその人のニーズと活動を希望する人・団体等を繋ぐコーディネート機能をさらに強化していきます。」</u> 多世代交流については、今後の事業展開の参考とさせていただきます。 |
| 第2回資料 1－2 P2 | タイトルが地域包括ケアシステムと地域共生社会となっているが、本文・イラストが一致しないのではないかな。 | 「地域共生社会とその中に含まれる地域包括ケアシステム」などとすると冗長になるため、表現はこのままとしたいと考えます。 |
| 第2回資料 1－2 P4 | ・ゆうゆう大学について 規則上の定員が420名と記憶していたが、計画上、令和6年度の参加募集の人数は300名になっている。上限定員までの募集をしないのは何故か。 300名の募集としているのが、高齢者のニーズが少なくなっているということなら、是正をする考えはないのか ・ゆう大の有料化について、事前に説明なく始まった印象があるが、負担が難しい人については免除措置を行うなどの考えはあるか | 令和5年度に要領の改正を行い、6学園420人（各70人）を6学園300人（各50人）に変更したことから、次期募集（令和6年度）の人数を300人としました。 受け入れ人数を変更したのは、令和元年度より入学年齢を60歳から65歳に変更としていること、令和4年度より千葉県生涯大学校が募集を再開したことから、ゆうゆう大学入学希望者が減少しており、運営上適正な人数に改めたものです。 ゆうゆう大学の有料化に係る事前の説明については、開設している6学園それぞれの募集説明会で説明しました。 自己負担については、公民館で主催する他の事業についても受益者への負担は求めており、県内他市でも有料で実施しているところがほとんどであること、講座1回あたりにすると250円と低廉なことから、免除する考えはありません。 |
| 第2回資料 1－2 P4 | ・市民教養講座について、高齢者支援計画での記載では公民館になっているが、博物館や森の図書館でも同様の事業があり、また無料のものや有料のものなど、整理・統一されておらずわかりづらい。 これを一元的に管理し、わかりやすく対象者に伝えることはできないか | 過去には講座情報をまとめた冊子を配布するなど、情報の提供に努めたところですが、日程の変更や新たな講座情報を発信できないなど、即時的で柔軟な運用に向かないことから、現在は広報ながれやま及び市ホームページのイベント欄において掲載するようにしています。 御意見をいただきまして、市ホームページ担当課と調整を行い、イベント欄で、対象者の選択機能を拡大し、高齢者が参加できる講座等を検索できるよう改修を行いました。今後掲載されるイベントについては、高齢者の方が参加できる講座が検索しやすくなる見込みです。また、インターネットの利用が困難な方もおられますので、講座の内容によっては、インターネットに加えて紙媒体での発信も併用するなど、今後も適切な方法について研究してまいります。 |

| 該当箇所 | 質疑・意見等 | 回答 |
|--------------|---|--|
| 第2回の概要説明について | <p>(総論ほか)</p> <p>後期高齢者数が前期高齢者数を上回る事象について、令和7年の想定から令和2年度に早まったとの記載がある。この要因について検証しているか。</p> | <p>前期高齢者数と後期高齢者数の比較については、第8期計画策定時は5年刻みの概要版・推計値により、2020年（令和2年）と比較して2025年（令和7年）には上回っていると記載されていました。この記載について今回の概要資料作成時に「令和7年にはじめて上回る」と誤った認識をしまい、令和2年の実績とあわせて「令和7年から令和2年に早まった」との記載をしてしまいました。</p> <p>1年刻みの詳細版・推計値を確認すると、2020年と2025年の中間年である2021年（令和3年）に逆転する推計となっており、「令和7年から令和2年に早まった」との記載は「令和3年から令和2年に早まった」との記載が正しくなります。<u>本年度の資料において前回計画の説明内容の精査が不十分で、誤った説明となりまして申し訳ありませんでした。</u>令和3年から令和2年に前倒しされていますが、大きな乖離が生じている訳ではないため、概ね推計値は適切であると考えています。（詳細は下記のとおりです。）</p> <p>(第8期計画の第1回審議時点)</p> <p>本年第1回審議会の概要資料と同様の概要資料を提示しました。当該資料において、市の将来人口推計・中位推計（平成30年）における5年刻みの推計より引用し、2020年では前期＞後期でしたが、2025年において前期＜後期と上回っている想定であることを提示しました。</p> <p>(第9期計画の第1回審議時点)</p> <p>人口推移の実績では、令和2年において前期＜後期となっています。本年第1回審議会の概要資料中では、第8期計画審議で提示した5年刻みの推計値や記載を「令和7年にはじめて上回る」と誤って認識したことから、「令和7年から令和2年に早まった」と記載しました。</p> <p>(実績値及び1年刻みの中位推計値)</p> <p>市、全国ともに団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる令和7年度（2025年）より以前（市：令和2年、全国：平成30年）の時点で後期高齢者数の方が多くなっております。</p> <p>市の中位推計における1年刻みの詳細版については、令和3年（2021年度）に前期＜後期と上回っています。</p> <p>※第1回配布資料については、「令和7年から令和2年に早まった」ではなく、<u>「令和3年から令和2年に早まった」との記載に訂正させていただきます。</u></p> |
| 第1回資料第1編第1章 | <p>(総論ほか)</p> <p>団塊の世代が75歳以上になる2025年（令和7年）、団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年（令和22年）が強調されているが、流山市の実態や全国との比較はどうか。高齢者数はどこまで増加する予定となっているか。</p> | <p>本市の人口推計では、<u>全人口は2027年・213,179人（高位推計）をピークに減少に転じる見込</u>です。また、<u>65歳以上人口は2051年・60,538人、75歳以上人口は2057年・37,635人</u>がピークと推計されています。</p> <p>国全体の人口推計では、2008年:1億2,808万人をピークに減少を続けています。65歳以上人口は2040年3,920万6千人から2045年3,919万2千人となっており2045年頃には減少に転じる見込みです。75歳以上人口は推計期間の最終年2045年・2,276万7千人まで減少見込はなく、いつピークを迎えるかは示されておりません。（詳細は下記のとおりです。）</p> <p>○流山市（H30.3）「次期総合計画における将来人口推計調査報告書」※2017~2060年の1年刻み、5年刻み。いずれも4月1日基準。</p> <p>【ア.全人口】2023年（実績）:209,237人に対して、2027年（高位推計）:213,179人がピークと推計されています。全人口については、2023年7月に210,897人に達するなど、子育て世代の転入増加や出生数の増加などを要因とした上振れが続いており、中位推計（2027年:206,069人）を上回って高位推計に近い状況となっています。</p> <p>【イ.65歳以上人口】2023年（実績）:47,138人・高齢化率22.5％に対して、2051年（中位推計）:60,538人・高齢化率31.4％がピークと推計されます。2023年時点の実績値:47,138人は、推計値（中位推計）:50,068人を下回っています。人口増加が子育て世代や年少人口が大半を占めており、高齢者数の伸びが想定を下回っていることが要因として考えられます。</p> <p>【ウ.75歳以上人口】2023年（実績）:26,495人に対して、2057年（推計）:37,635人がピークと推計されています。75歳以上人口についても、65歳以上人口と同様に推計値を下回る実績となっています。</p> <p>○国立社会保障・人口問題研究所（H30）「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）-平成27（2015）~57（2045）年-」※2015年から2045年までの5年刻みの推計値・いずれも10月1日基準。</p> <p>【ア.全人口】2008年（実績）:1億2,808万人をピークに減少を続け、2045年:1億642万1千人となる見込です。</p> <p>【イ.65歳以上人口】2015年（実績）:3,386万8千人・高齢化率26.6％に対して、2040年（推計）:3,920万6千人・高齢化率35.3％、2045年（推計）:3,919万2千人・高齢化率36.8％となっており、2040年-2045年の5か年の間で減少に転じる見込です。</p> <p>【ウ.75歳以上人口】2015年（実績）:1,632万2千人に対して、推計期間の終期である2045年（推計）:2,276万7千人となっており減少見込はありません。※2045年以降の推計値は、本推計では公開されていないため、人口のピークを示すことはできません。</p> |